

奈良市議会  
新所  
齋選  
良業  
奈事

# 再公募を問題視

## 市会委「公正さ疑問」

奈良市議会の総務委員(九里雄二委員長)が6日開かれ、市が取り組む新斎苑(火葬場)整備で、事業者選定の公募型プロポーザルが不調に終わった後、検証もそこそこの2度目の公募に踏み切ったことに対し、自民党奈良市議会や日本維新の会から問題視する発言が相次いだ。

2度目の公募は19日に締め切られる予定だ

が、「公正な入札(選定)になるのか」など市議会の追及は続いている。

山本憲有氏(自民党)は平成25年度以降、市の大型工事(予定価格1億5000万円以上)のうち、1度目の入札が不調となった事業が4件あったことに触れ「不調の原因は特定はできないが、結果を見る限り市の設計・積算業務そのものが正

しいのか、疑念を持たざるを得ない」と指摘。その上で「一般的な入札と単純比較はできないが、新斎苑に関してDBO事業者(共同企業体J・V)の提案価格が市の支払い総額の上限価格を超えただめ失格というのなら、積算方法を見直さなければならぬ」と述べた。また市が異例の速さで2度目のプロポーザルの実施に踏み切っ

たことにも「議会からも疑問の声が多く寄せられている」と勇み足をけん制した。

三橋和史氏(維新)も「今回の公募では現地説明会などの項目が削除され、公平公正を期すのであれば当初募集の通りで実施すべき。新規参入を阻害する内容だ」と適正性に疑問を示し、「事業者の負担を軽減する形で再募集する」というの

は、積算根拠が崩れた」と批判した。

このほか、同委員会では森田一成氏(自民)が市役所中央棟などを耐震改修する市の方針に対し「コスト面ばかりに目がいき、『安価にスピーディーに』以外何もない。物事を始めるにはテーマやコンセプトが必要。複合化を検討するとか、周辺のホテル開業等に合わせた検討も必要」と異を唱えた。

山口裕司氏(共産党)は病気休暇中に妻が経営する売店の業務に従事、停職処分となった市職員の問題に関し、改めて病休中の職員の療養の把握などについて質問。市は「療養把握のため、20日を超えて病気休暇・休職中の職員に対しては、今後所属長が7日ごとに療養状況の確認と、20日目には対面による確認も行う」などと答えた。